



## 2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月9日  
上場取引所 東

上場会社名 株式会社 平和  
 コード番号 6412 URL <https://www.heiwanet.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 嶺井 勝也  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部経営企画グループ (氏名) 小祝 隆 TEL 03-3839-0701  
 ゼネラルマネージャー  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月10日 配当支払開始予定日 2022年12月9日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有  
 四半期決算説明会開催の有無： 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	70,930	20.7	15,337	224.0	15,136	212.4	10,798	324.5
2022年3月期第2四半期	58,754	55.5	4,733	—	4,844	—	2,543	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 10,521百万円 (296.3%) 2022年3月期第2四半期 2,654百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	109.48	—
2022年3月期第2四半期	25.79	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	414,636	223,759	54.0	2,268.68
2022年3月期	417,066	217,186	52.1	2,202.00

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 223,759百万円 2022年3月期 217,186百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
2023年3月期	—	40.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	138,000	13.5	20,700	102.2	20,000	91.1	13,300	506.4	134.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

当社グループは、業績管理を年次で行っていることから、通期連結業績予想のみを開示しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

（注）詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

（注）詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年3月期2Q	99,809,060株	2022年3月期	99,809,060株
2023年3月期2Q	1,179,063株	2022年3月期	1,177,527株
2023年3月期2Q	98,630,924株	2022年3月期2Q	98,632,991株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
2. 当社は、2022年11月14日（月）に証券アナリスト・機関投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料については、当四半期決算短信開示後速やかに当社ホームページに掲載します。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書 .....	6
第2四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(会計方針の変更) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

遊技機業界におきましては、全日本遊技事業協同組合連合会の発表によれば加盟店舗数の減少傾向は続いており、依然としてパチンコホールの経営は厳しい状況が継続しております。一方、今期より導入が開始されたパチスロ6.5号機の稼働が良好で、パチンコホールの営業の軸はパチンコからパチスロへ移行しつつあります。さらに、11月からはゲーム性の幅がより広がったスマートパチスロの導入が開始される予定であり、電子部品不足の影響から市場導入される台数は限定的となる懸念はあるものの、市場回復への期待感は大幅に高まっております。当社では、業界初のスマートパチスロとなる「バキ 強くなりたくば喰らえ!!!」の販売に注力しております。

ゴルフ業界におきましては、例年より梅雨の期間が短く全国的に天候に恵まれたため、ゴルフプレー需要は引き続き旺盛で、来場者数は好調に推移いたしました。また、顧客単価は、前年の緊急事態宣言の再発出、まん延防止等重点措置に伴うアルコール提供の自粛、コンペの減少等による下落から回復傾向となりました。しかしながら、エネルギー資源の価格高騰、各種原材料価格の上昇等によるインフレ進行や円安の影響により、コスト面の増加が懸念されるためその推移を注視する必要があります。

このような経営環境下、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高70,930百万円（前年同期比20.7%増）、営業利益15,337百万円（前年同期比224.0%増）、経常利益15,136百万円（前年同期比212.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益10,798百万円（前年同期比324.5%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### (遊技機事業)

遊技機事業におきましては、パチンコ機は「戦国乙女 LEGEND BATTLE」、 「黄門ちゃま神盛2」等を発売し、販売台数38千台（前年同期比9千台増）、パチスロ機は「黄門ちゃま喝2」、「BIG島唄30」等を発売し、販売台数20千台（前年同期比10千台増）となりました。

売上高は、パチンコ機、パチスロ機ともに販売台数が前年同期に比べ増加したこと、パチンコ機の販売価格が上昇したことにより、前年同期に比べ大幅に増加いたしました。利益面は、パチンコ機、パチスロ機の販売台数の増加、売上原価の低減、及び前期実施の希望退職制度による人件費圧縮により、前年同期比で大幅に増加いたしました。

以上の結果、売上高23,451百万円（前年同期比53.7%増）、営業利益6,957百万円（前年同期は営業損失1,495百万円）となりました。

#### (ゴルフ事業)

ゴルフ事業におきましては、お客様の満足度向上及び競合他社との差別化を図る施策として、PGMサポートプロと一緒にプレーしながらワンポイントレッスンを受けられるサービス「withGolf」の拡充を進めているほか、2022年8月より運用を開始した送風機付ゴルフカート「Cool Cart」が、9月末時点で62ゴルフ場に導入を完了し、お客様からご好評をいただきました。M&Aでは、2022年9月に「足柄森林カントリー倶楽部」の株式譲渡契約を締結し、2022年12月より運営を開始する予定です。

ゴルフ事業の業績は、会食を伴うコンペは未だコロナ禍前の水準まで回復しておりませんが、高まるゴルフプレー需要に応じた価格設定により顧客単価は回復傾向にあり、また、大きな災害もなく全国的に天候に恵まれたことにより引き続き需要が高く推移したことに加え、前年に取得したゴルフ場が貢献し、売上高、利益面ともに前年同期比で増加いたしました。

以上の結果、売上高47,478百万円（前年同期比9.2%増）、営業利益9,720百万円（前年同期比30.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

総資産は、前連結会計年度末に比べ2,430百万円減少し、414,636百万円となりました。原材料及び貯蔵品が1,511百万円増加する一方、現金及び預金が4,759百万円減少しております。

(負債の部)

負債は、前連結会計年度末に比べ9,003百万円減少し、190,876百万円となりました。流動負債のその他が5,674百万円、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）が4,121百万円減少しております。

(純資産の部)

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の組み入れにより利益剰余金が10,798百万円増加する一方、剰余金の配当により利益剰余金が3,945百万円減少したこと等により、前連結会計年度末より6,572百万円増加し、223,759百万円となりました。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の52.1%から54.0%となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想につきましては、2022年5月13日に公表した連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	42,250	37,491
受取手形及び売掛金	7,561	8,171
電子記録債権	1,080	1,455
有価証券	24,801	25,200
商品及び製品	2,365	2,668
原材料及び貯蔵品	7,345	8,857
その他	7,696	6,971
貸倒引当金	△272	△280
流動資産合計	92,828	90,534
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	64,811	64,132
土地	215,307	215,449
その他(純額)	12,332	13,556
有形固定資産合計	292,451	293,138
無形固定資産		
のれん	5,748	5,571
その他	4,493	4,316
無形固定資産合計	10,242	9,887
投資その他の資産		
投資有価証券	8,238	7,824
その他	13,601	13,471
貸倒引当金	△296	△219
投資その他の資産合計	21,543	21,075
固定資産合計	324,238	324,101
資産合計	417,066	414,636
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,704	3,797
電子記録債務	7,224	8,419
1年内返済予定の長期借入金	29,543	20,223
未払法人税等	3,639	3,170
引当金	892	598
その他	22,252	16,577
流動負債合計	67,257	52,787
固定負債		
長期借入金	83,103	88,301
退職給付に係る負債	5,278	5,368
その他	44,240	44,419
固定負債合計	132,622	138,089
負債合計	199,880	190,876

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,755	16,755
資本剰余金	54,863	54,863
利益剰余金	146,922	153,775
自己株式	△1,346	△1,350
株主資本合計	217,194	224,044
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41	△242
退職給付に係る調整累計額	△49	△42
その他の包括利益累計額合計	△7	△284
純資産合計	217,186	223,759
負債純資産合計	417,066	414,636

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	58,754	70,930
売上原価	42,778	45,515
売上総利益	15,975	25,415
販売費及び一般管理費	11,241	10,077
営業利益	4,733	15,337
営業外収益		
受取利息	67	34
受取配当金	21	68
投資有価証券売却益	—	4
受取保険金	56	58
売電収入	82	86
固定資産売却益	114	112
その他	278	214
営業外収益合計	620	579
営業外費用		
支払利息	205	194
有価証券償還損	55	—
支払手数料	54	129
固定資産除却損	50	249
その他	143	206
営業外費用合計	509	779
経常利益	4,844	15,136
特別利益		
特別利益合計	—	—
特別損失		
特別損失合計	—	—
税金等調整前四半期純利益	4,844	15,136
法人税等	2,301	4,338
四半期純利益	2,543	10,798
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,543	10,798
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	107	△284
退職給付に係る調整額	3	7
その他の包括利益合計	111	△276
四半期包括利益	2,654	10,521
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,654	10,521

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当社及び一部の連結子会社の税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、税引前四半期純利益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減したうえで、法定実効税率を乗じる方法によっております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注)2
	遊技機事業	ゴルフ事業	計		
売上高					
一時点で移転される財	15,260	39,289	54,549	—	54,549
一定の期間にわたり移転される財	—	4,204	4,204	—	4,204
顧客との契約から生じる収益	15,260	43,494	58,754	—	58,754
外部顧客への売上高	15,260	43,494	58,754	—	58,754
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	0	0	△0	—
計	15,260	43,494	58,755	△0	58,754
セグメント利益又は損失(△)	△1,495	7,429	5,933	△1,199	4,733

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△1,199百万円には、セグメント間取引消去3百万円及び配賦不能営業費用△1,203百万円が含まれております。配賦不能営業費用は、提出会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注) 2
	遊技機事業	ゴルフ事業	計		
売上高					
一時点で移転される財	23,451	43,176	66,628	—	66,628
一定の期間にわたり移転される財	—	4,301	4,301	—	4,301
顧客との契約から生じる収益	23,451	47,478	70,930	—	70,930
外部顧客への売上高	23,451	47,478	70,930	—	70,930
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	1	1	△1	—
計	23,451	47,479	70,931	△1	70,930
セグメント利益又は損失 (△)	6,957	9,720	16,677	△1,340	15,337

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△1,340百万円には、セグメント間取引消去3百万円及び配賦不能営業費用△1,343百万円が含まれております。配賦不能営業費用は、提出会社の管理部門に係る費用であります。
2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。